

資料 4

市内で活動するNPO等へのアンケート結果

アンケート調査

市民活動の現況、問題点を把握するために、アンケート調査を実施した。その概要と調査結果を以下にまとめた。

アンケート調査の目的

- ①生物多様性戦略を策定したことによる市域自然環境に関する状況の把握
- ②市内で自然環境保全に関して活動をしている団体の取り組み状況を把握について把握し、北九州市自然環境保全ネットワークの加盟団体等に、現在、団体等を取り巻く状況等についてアンケート調査を実施した。

実施内容

調査票配付先の選定

調査票の配付先は、自然環境保全ネットワークの会における意見も参考にして、高等学校の部活動の学生団体等を含めた 42 団体とした。

実施要領

- ①調査対象数：42 件（団体）
- ②調査票配布方法：郵送
- ③調査票回収方法：郵送（返信用封筒付）、FAX
- ④回答期限：平成 26 年 11 月 17 日（月）～ 平成 27 年 1 月 16 日（金）
- ⑤回答数：21 件（団体）
- ⑥回答率：50%

回答結果（団体属性情報）

団体活動内容

本調査でアンケート回答のあった 21 団体における主要な活動内容は、「植樹や河川清掃、農業や水産業を通じた身近な自然を通じたイベント活動」（57%）、「自然環境教育といった人材育成活動」（57%）が最も多く、半数以上の団体が実施している。以下、「動植物の生息調査、生態調査」（48%）の割合が多く、これに「講演、活動誌の発行などを通じた自然に関する啓発活動」（43%）、「里山の保全活動」（33%）等の活動が続いている。

団体の主な活動内容（総回答数：70）

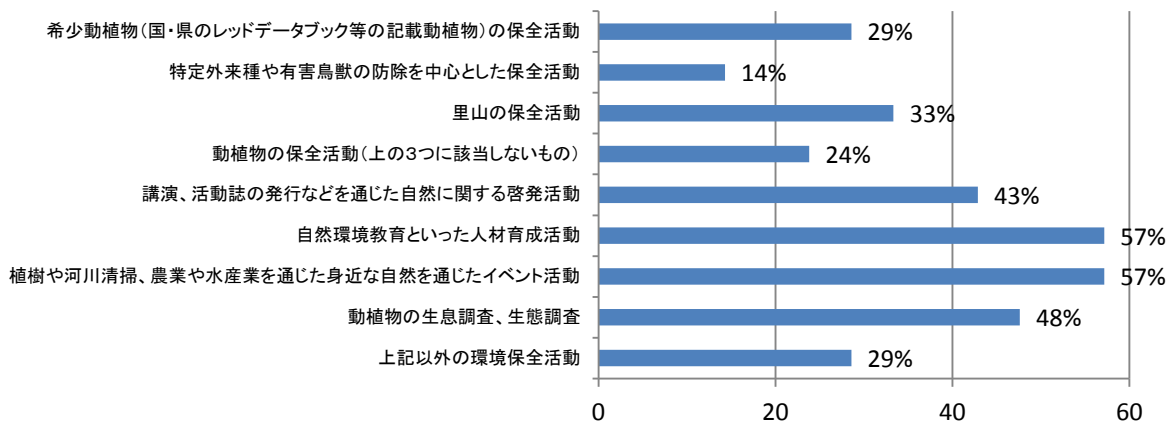


図 2.1 団体の主な活動内容

団体の規模（主に活動している人数）

各団体において主に活動している人数については、「10 人未満」（24%）および「20 人未満」（24%）との回答が最も多く、これらに「50 人未満」（19%）、「50 人以上」（19%）との回答が続いている。

主に活動している人数（N=21）

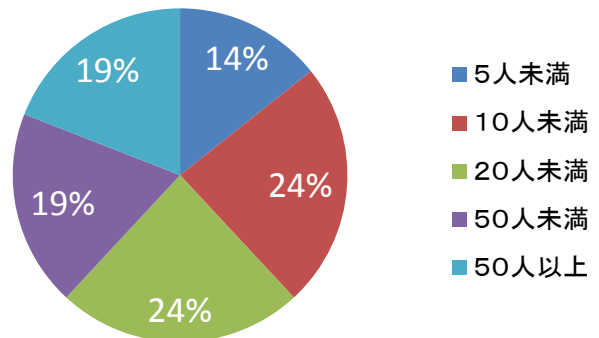


図 2.2 主に活動している人数

団体を構成する主な世代（活動の中心となっている世代）

各団体において、活動の中心となっている世代については、「60歳以上～70歳未満」（38%）との回答が最も多かった。「70歳以上」が活動の中心となっている団体も1団体あり、60歳以上の団体は43%を占めた。

その他の世代構成「18歳未満」、「18歳以上～40歳未満」、「40歳以上～60歳未満」は同数であった。

団体を構成する主な世代（N=21）

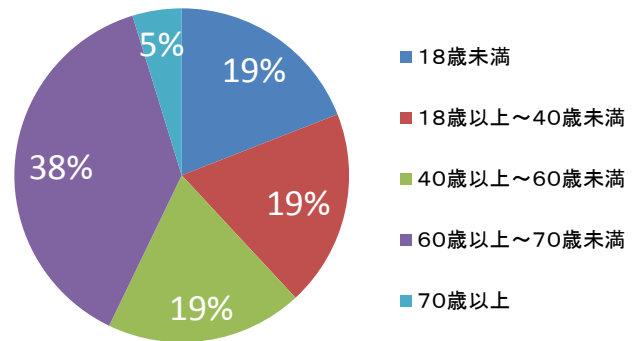


図 2.3 団体を構成する主な世代

主な活動場所

各団体の主な活動場所は、以下のようになっており、北九州市全域で活動が実施されていることがわかる。

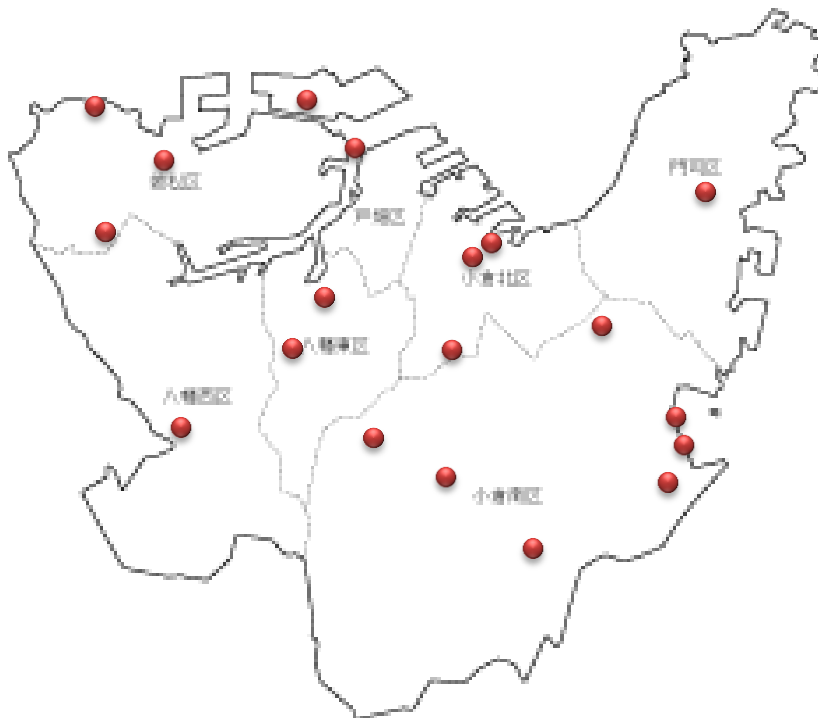


図 2.4 主な活動場所

回答結果（団体の活動状況に関する満足度）

各団体の活動状況に関する現状での満足度については、「満足している（60%以上～80%未満）」（43%）、「おおむね満足している（40%以上～60%未満）」（33%）となっており、7割以上（76%）の団体が、現状の活動について満足している状況にある。

【設問内容】

○貴団体の活動状況において、現在の満足度はどれくらいですか？（1つ選択）

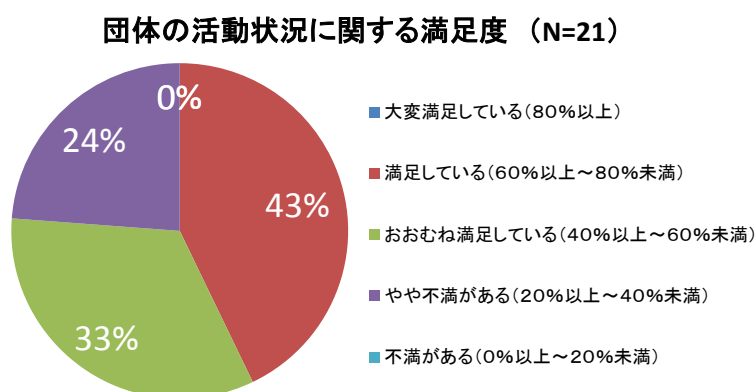


図 2.5 団体の活動状況に関する満足度

回答結果（団体の活動に関する問題点）

各団体の活動に関する問題点は、「活動する人が高齢化している」（57%）との回答が最も多い結果であり、次に「活動をする人数が少ない」（43%）や「活動費用不足や物品購入費用が高いといった金銭的な問題で活動が制限されている」（33%）の回答が続く。

【設問内容】

○貴団体が活動する上で直面している問題点や困っていることを選択してください。（複数回答可）

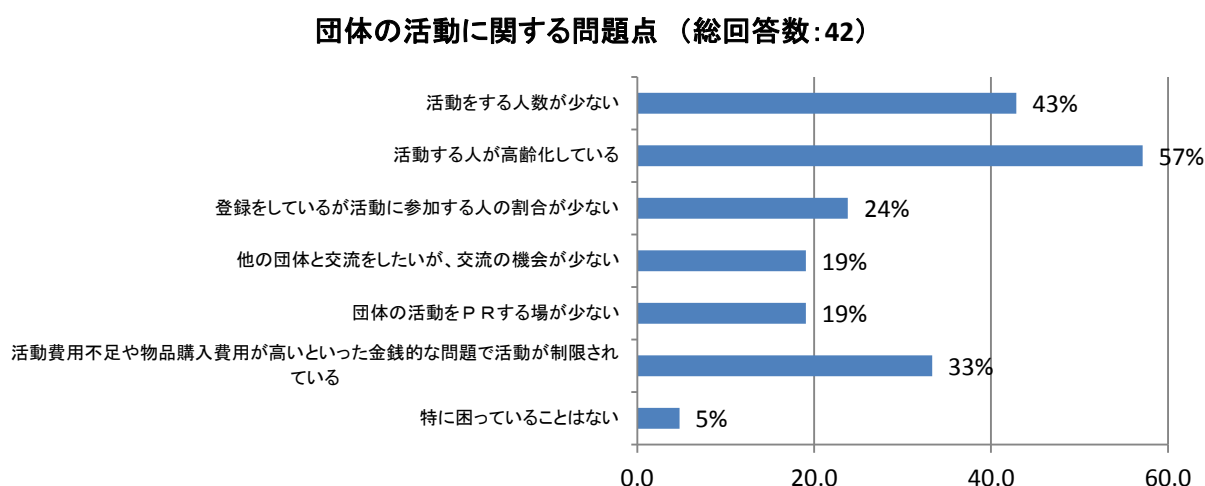


図 2.6 団体の活動に関する問題点

回答結果（各団体が期待する取り組みや要望）

自然環境保全において必要と感じている取り組みについては、「環境保全に取り組む団体への補助の拡充」（48%）が最も多く、続いて、「自然に関する有識者との連携」（43%）を望んでいる団体が多い。

【設問内容】

○今後、自然環境保全に関する取り組みで必要と感じている項目について選択してください。（複数選択可）

自然環境保全で必要と感じる取り組み（総回答数:66）

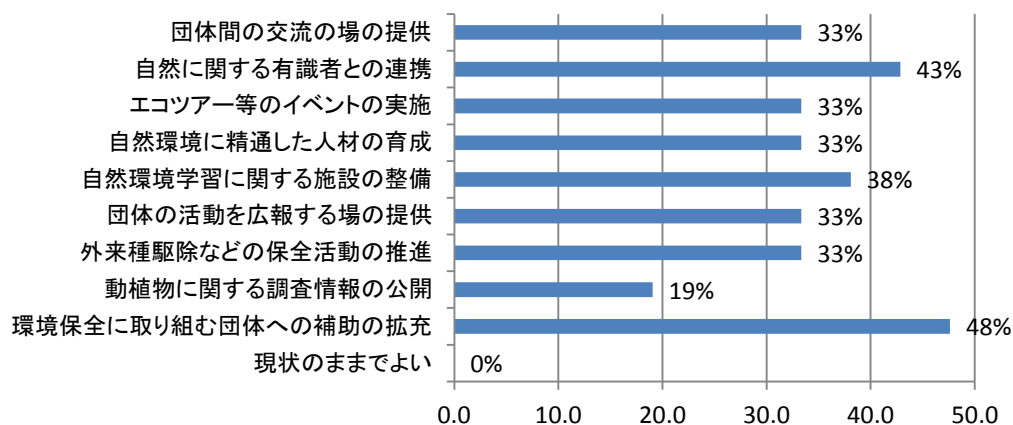


図 2.7 自然環境保全で必要と感じる取り組み

市内の自然環境保全活動の状況に関しては、「自然環境保全活動について、以前とおおむね状況は変わっていない。」(33%)と感じている団体の割合が一番多かった。一方、今後を含めて活動状況に良い印象を持っている団体(以前と比較して状況が「良くなっている」(14%)、「良くなりつつある」(24%)、「良くなる見込みがある」(19%)の合計)も4割程度(38%)あり、「変わっていない」と答えた団体より多かった。

反対に、「自然環境保全活動が停滞しており、以前より悪い状況になっている。」(10%)と感じている団体は最も少なかった。

【設問内容】

○市内の自然環境保全活動の状況に関して感じていることについて選択してください。
(1つ選択)

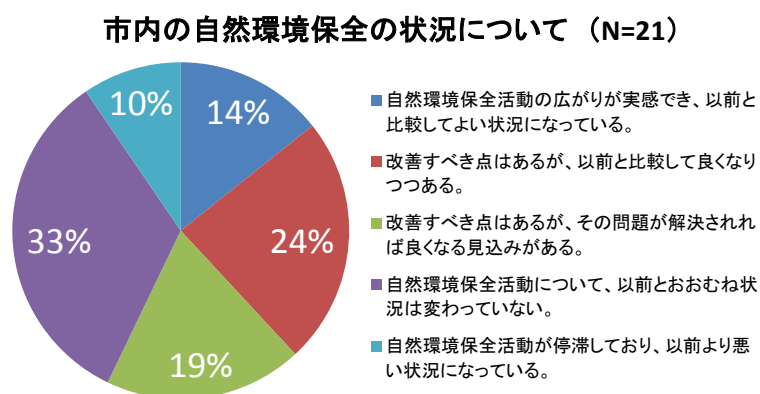


図 2.8 市内の自然環境保全の状況について